

北東アジアの戦域核バランスに関する質問主意書

右の質問主意書を国会法第七十四条によつて提出する。

昭和五十八年七月二十二日

秦 豊

参議院議長 木村 睦 男 殿

北東アジアの戦域核バランスに関する質問主意書

ソ連が極東に配備しているSS20はすでに百八基に達し、新たに十か所にのぼる基地建設も米
国側によつて確認されている。

一方、海・空を含めた米国側の対応にも格段の変化がうかがわれる。そこで北東アジアの
INF(中距離核戦力)問題について数点を質問する。

- 一 北東アジアにおけるソ連のINF戦力の構成については、どのように把握しているか。
- 二 北東アジアにおける米国のINF戦力は、いかなるものによつて構成されていると思うか。
- 三 北東アジアにおける米・ソ両国のINF戦力は、相互にバランスしていると考えるか。もし
バランスがとれていないとすれば、一定水準の核戦力バランスがとれることが日本の立場から
して望ましいと考えるか。

四 去る七月十四日、共同通信社主催の講演会において、中曽根首相は、改装戦艦ニュージャージーの日本寄港の意味に触れて、「極東における相手の軍事力とのバランスを回復するため」とし、対ソ抑止力の向上に狙いがあることを強調された由だが、首相の言われた対ソ抑止力には、当然INF等の核戦力も含まれているのではないのか。

五 米第七艦隊の空母二隻体制や水上艦艇等への巡航ミサイル配備、戦艦ニュージャージー等の太平洋配備と日本寄港、F16の三沢基地配備、B52G型へのSRAM(短距離攻撃ミサイル)又はALCM(空中発射巡航ミサイル)の搭載等は、全体としてとらえた場合、北東アジアにおけるINF戦力の拡充強化と見るのがむしろ常識である。これは、政府として歓迎すべき方向ではないのか。

右質問する。